

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	2278200106		
法人名	社会福祉法人三幸会		
事業所名	グループホームやまざき		
所在地	静岡県浜松市西区雄踏町山崎2829番地		
自己評価作成日	令和5年9月1日	評価結果市町村受理日	令和5年10月26日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/22/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JiyouCd=2278200106-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search">https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/22/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JiyouCd=2278200106-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search</a>
----------	---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	株式会社第三者評価機構 静岡評価調査室		
所在地	静岡市葵区材木町8番地1 柴山ビル1F-A		
訪問調査日	令和5年10月3日		

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

運営理念に基づき、家庭的な雰囲気やゆったりと楽しく自由でありのままに、その人らしい生活が出来よう日々支援に努めています。食事の支度や、調理、洗濯など、日常生活の中でのリハビリとして、利用者様と職員一緒に行っています。”よくしゃべり、よく笑い、よく歩いて頂く”を目標に午前と午後に散歩や体操、食事前には口腔体操を行い機能維持に努めています。自然に囲まれた環境の下で、四季を感じながら楽しく過ごしていただくため、庭での食事を実施しています。コロナ禍で行動制限がありましたが、感染予防対策を実施しながらのドライブ外出も実施致しました。また、短時間ではありますが、お部屋での面会を再開致しました。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

特別養護老人ホームとの併設で敷地が広く、季節の変化を果樹の実りで知る散策が日常に溶け込んでいます。特に梅の木は採取からジュースづくりまで利用者を多面的に楽しませています。日常の活動が収まったスナップ写真は「食べる」「調理、掃除する」といった様子の他、レクリエーションで仮装に興じておどける姿もあり、一枚の写真のなかにラポールの輪が浮かび、大家族のようにも映るほどです。グループホームのお手本のような事業所ですが、法人内の異動でデイサービス勤務から新たに加わった職員のレク力で更にパワーアップして、作品づくりや掲示物は驚くほど豊かになっています

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所内に運営理念、グループホームの目標を掲示し、すべての職員が共有して実践につなげています。	法人内の異動ではあるものの新人が入職しており、「業務を優先しない、パーソンセンタードケア」について話して聞かせ、事業所の方針と目標の共有を図っています	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	以前は地域の行事に招待され参加していましたがコロナ禍により地域行事もなく、参加も出来ていません。外出制限の中、感染予防対策を実施しながらドライブ外出を実施しています。また、近隣のお店よりテイクアウトをして外食気分を味わっています。	運営推進会議で得た情報も反映させ、コロナ禍前には地域行事へも足を運んでいました。現在は少しずつ様子を見ながら復調を試みていますが、広大な敷地とともに隣接の施設との関係が近所づきあいそのものともいえます	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議を2ヶ月に1回開催し、代表者と意見交換し、地域の方々の意見を聞きながら認知症の理解を深めて頂くよう情報を伝えたりしています。施設開催が出来ない時は書面で意見を頂いています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者様の近況報告や行事報告を毎回行っています。利用者の活動の様子をグループホーム便りやスライドショーで見て頂き、意見交換など地域の方々との交流に努めています。	「5類になったので書面開催はおこなわない」との浜松市の指導に従い、夏風邪が流行した折には運営推進会議の参会を縮小する形でおこない、隔月開催を遵守しています	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議には区役所職員が参加しています。会議後は会議録を作成し提出しています。	浜松市では、人生の最終段階における医療・ケアのために「人生会議手帳」を作成しました。事業所では関わる一人ひとりに配付するために手帳を取り寄せ、人生会議を開くことを視野に入れています	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束ゼロ宣言のポスターを掲示し全職員に周知し、3か月毎に身体拘束廃止委員会を開催し協議しています。また、虐待・身体拘束・人権について年2回施設内研修会で学びの場を設けています。	「身体拘束等の適正化のための指針」に基づき、四半期ごとの委員会開催や職員研修をつつがなく推進しています。事業所の理念、目標、日頃の取組からは拘束や虐待はあり得ませんが、学びは欠かさず積んでいます	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	月1回のグループホーム会議を実施し、虐待になっていないか職員の行動を振り返り、利用者様の現状を全職員で共有しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在は1名の利用者様がこの制度を利用しています。この制度を必要とされている方には活用できるよう支援しています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	コロナ感染症予防対策により、利用者様に接しないよう配慮し、居室内や利用者様の様子を見て頂き、説明をしています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	コロナ感染症予防により面会を頻回に出来ない中、グループホーム便りを毎月郵送し、メールで個々に利用者様の様子を伝えています。受診や短時間面会の際には、家族の意見を伺っています。	コロナ禍のデメリットを解消すべく、「グループホームやまごき便り」の写真が増え、家族への情報提供が充実しています。それを裏付けるように、家族アンケートにおいても賛辞の言葉が満載です	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月グループホーム会議を実施し意見交換を行っています。個別に意見がある時はその都度意見や提案を聞く機会を作っています。共有した方が良い意見は連絡ノートなど用い職員全員に周知しています。	新たに入った職員は整理整頓が得意で、フロアには清潔感が満ちています。またグループホーム勤務が初めてなことから異なる視点での意見は貴重で、先輩職員は大いに見習い、取り入れています	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	給与水準・労働時間・やりがいなど、必要な条件整備のため法人理事会に提案して職場環境・条件の整備に努めています。また、職場改善提案を提出するよう心掛けています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月1回、施設内研修会を開催し職員のスキルアップを図っています。また外部研修も出来る限り全職員が参加できるよう配慮しています。現在1名の職員が資格取得の為実務者研修を受けています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	静岡県認知症高齢者グループホーム連絡協議会に加入し、研修会などを通して交流しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	面接時に本人の要望を聞き、生活パターンを取り入れた支援を行っています。職員と共に日々の活動を一緒に行い、信頼関係を築いています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面接時に家族の要望を聞き、可能な範囲で応えるようにしています。また、常に相談に乗りながら家族との良好な関係づくりに努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居時に本人と家族の意向を十分に理解して支援するよう努めています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	理念に基づき職員は利用者と共に日々の生活を一緒に過ごし、支えあい寄り添って安心して暮らせるよう、良好な関係を築いています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月グループホーム便りで日々の活動の様子を報告しています。緊急性が無い時は、メールで家族との情報交換を行っています。受診時には家族に付き添いをお願いし、本人との絆を大切にしています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍で面会制限があり、以前のようにできていません。短時間面会やかかりつけ医院への受診など可能な限り、家族や馴染みの人との交流が出来るよう努めています。	長くコロナ禍で家族と落ち着いて触れ合う機会が少なかった反面、眼科などの専門医への通院は家族と過ごす時間となり、また事業所も家族とeメールで情報共有が密です	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が同士の関わり合い、支え合えるような支援に努めている	レクリエーションや作品作り、おやつ作りなどみんなで出来る行事を企画し、協力しながら仲良く過ごせるよう支援しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	グループホームから特養に移った方のごとくに会いに行ったり、家族にも声掛けを行い、これまでの関係を大切にしています。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人がどのように暮らしたいかを日々の会話を傾聴し、会話の中から推察しつつ、その人がその人らしく、楽しく過ごせるように努めています。	会話を大切にしていることから、書面上のアセスメントに留まらないキャッチボールがあり、「舎弟のところに行く」と飛び出した利用者に付き添って歩きながら回想に至るといった例もあります	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の生活歴を家族やケアマネから聞き取り、ご本人が生活のリズムを崩さないよう、自分のペースで過ごせるよう支援しています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	業務日誌に一人ひとりの事柄を記録しています。特に気をつける事は連絡ノートに記入し職員全員が情報共有するようにしています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月グループホーム会議を行い、利用者様一人一人の情報を共有し、より良い支援を行えるよう話し合いを行い、介護計画に取り入れています。	本年度の事業所目標は「利用者職員共に笑顔で過ごす」です。介護計画書にも利用者の笑顔を引き出す要素が見られ、計画作成担当者も担当職員も意識している事が観えます	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	業務日誌に日々の様子や活動を記入し、個別に担当を決め、毎月の様子、状況を記入しています。会議や連絡ノートで職員間での情報を共有し、介護計画の見直しに活かしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時々ニーズに対して特養の相談員や機能訓練指導員、看護師などに相談・協力を得て、サービスの多機能化に取り組んでいます。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	グループホームやまぎきでは共用型認知症対応型通所介護事業を行い、本人が心身の力を発揮しながら、安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援しています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人や家族の希望を聞いて、かかりつけ医と事業所の関係を築きながら納得がいく医療を受けられるよう支援しています。	協力医は一人ずつ丁寧に診察くださるため、月18日の日数を事業所に通っていて、当日診察予定者だけでなく、「ちょっと具合が…」というとき速やかに診てもらえ、安心な体制にあります	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	特養の看護師と相談し、状況に応じてかかりつけ医に連絡をとり、指示をいただいています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は面会に行き、状態の把握に努め、家族との情報交換を密にしサポートを行っています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に重篤化した場合や終末期の在り方について、ご本人や家族の意向を伺っています。しかし、状況によってご本人や家族の意向も変化する場合があります。都度声掛けをして意向を尊重した支援を行うようにしています。	「浴槽をまたげなくなったら」を一つの目安として、機械浴のある隣接の特別養護老人ホームへの移設を家族に投げかけています。契約段階で予め伝え合意していますが、より良い支援のためにも「人生会議手帳(浜松市)」の活用も考えています	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルを作成し、会議や勉強会などで初期対応の訓練を行っています。事故報告書を用いて事例検討会なども行っています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	毎月防災訓練などの災害対策を実施しています。地域で行われる防災訓練にも毎回参加していましたが、ここ数年はコロナ禍で中止となり参加できていません。	年2回の法定訓練は、総合訓練として隣接の施設と合同でおこなっています。そのほかに毎月1回簡易な非難訓練があり、居室の掃き出し窓からの出入りがスムーズとなるよう配しています	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりにあわせた対応を心がけています。言葉遣いや対応に気をつけ、その方の尊厳を損なわないように支援しています。	以前には他の居室に入ってしまうというケースがありましたが、都度職員が声をかけた結果、今ではその症状はなくなっています。呼称は下の名前が主体で、同じ名前の場合は名前で呼んでいます	現在は自然な流れで下の名前で呼ぶこともあるため、今後は契約時に家族と本人にどのような呼称がよいか確認することを期待します
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人の意思を尊重し、自分で選べる機会を設け、自己決定できるよう支援しています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりがその人らしく過ごせるよう、その方のペースに合わせた支援をするよう心がけています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	以前は行きつけの美容院へ行っていましたが、コロナ感染症が増加した為、理髪は特養に来ている訪問理髪を利用しています。髪染めなども本人の希望を聞きながら行っています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	出来ることを出来るように、その方の状態に合わせて役割を分担し、食事作りや片付けを職員と共に楽しく行えるよう支援しています。	子ども用包丁で昔取った杵柄を実践する人、家ではしなかったであろうモヤシのひげ根取りをする男性利用者もいて、皆で盛り付けや後片付けをおこない、食事全体が日常活動に溶け込んでいます	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立を管理栄養士が作成し、介護職員が食事摂取量や水分量を記録して、一人ひとりの健康管理を行っています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後声掛けをして、口腔ケアを実施しています。就寝前は自分で入れ歯のポリドント洗浄を行っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	トイレ誘導の必要な方にはトイレの声掛け、誘導を行っています。排泄表に記録し、その方の排泄パターンを職員で共有しています。	2名が布ぱんつ、7名がリハビリパンツと壮健で、大半の人が自らトイレに向かいます。一方、起床時と16時、就寝前には声をかけ、定期での確認も促しています	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分の補給や散歩などの運動を実施し、便秘予防に取り組んでいます。便秘気味の方には排泄表に記録し、対応しています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	隔日に入浴を実施し清潔保持に努めています。入浴日以外でも希望があったり、皮膚汚染があった場合にはその都度入浴を実施しています。またお風呂を楽しんでもらえるようゆず湯や菖蒲湯などの替わり湯も実施しています	26日を「風呂の日」として位置づけ、薬草湯やミカン風呂、菖蒲湯などのかわり湯を楽しんでいます。おやつのリングを堪能した後、皮を集めて浮かべた日もあり、アイデアには事欠きません	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の睡眠パターンに合わせて、食後に休憩したり、夜間安心して眠れるよう、室内を薄暗くしたり対応しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	誰がどんな薬を飲んでいるかを把握し、体調の変化が見られた時は速やかに主治医や特養看護師に報告し、指示を頂いています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日々の生活の中で出来ることを職員と一緒に、張り合いをもって過ごせるよう努めています。また行事を企画し、楽しんでもらえるよう支援しています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	お楽しみ外出、お誕生外出など設け、外に出かける機会を作っています。また希望に応じて職員と買い物に出かけています。昨年はコロナ禍で出かけられませんでした。中庭や駐車場など戸外の散歩に出ています。受診は家族と出かけて頂いています。	毎月何某かの外出機会を設けており、感染対策として食堂を貸し切ったこともあります。全員でのお出かけではなくマンツーマンを望む人も少なくないため、お誕生日外出の支援もおこなっています	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の管理は職員が行っています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	いつでも電話や手紙が出せるよう支援しています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節行事の作品を共有スペースに掲示するなど季節感を感じてもらっています。食事準備や片付の音や調理の匂いなど家庭の雰囲気や崩さず、テレビも好きな歌番組にするなど居心地の良い環境づくりに努めています。	「目印があったほうがいいですよ」と、トイレ入口に手製の標識をデイサービスから異動してきた職員が取り付けています。壁面の飾り付けも以前より豊かで趣のあるものが並んでいて、充実しています	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	デイルームにはゆったりと過ごせるようソファを置いたり、マッサージ機、作業テーブルを設置したり、各々好きなように過ごせる空間を作っています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自分の好きなものを居室に置いたり、写真を貼ったりと、居心地よく過ごせるよう工夫しています。	猛暑対策の一つとして、居室の扉を開けて共用空間のひんやり空気が入るようにしています。そのときに居室内が丸見えとなるため、好みの暖簾をかけていて、見た目にも楽しい出入口となっています	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活を送れるように工夫している	居室にはそれぞれトイレと洗面所が設置されており、安全かつ個々のプライバシーが守られるよう工夫されています。トイレトーパーも好みの品物を使用いただいています。		